

2009年度

科目名	人間と社会B		
担当教員	岡島 克樹		
配当	人社1	コード	31290
開期	後期	講時	水曜日1限
		単位数	2
授業テーマ	われわれは現代の日本社会をどのように生きればいいのか？		
目的と概要	ギデンスであれ、ライヒであれ、ベックであれ、最近注目されている海外の研究者は、議論のアングルは異なるが、いずれも一つのことを言っている。その彼らに共通する一つの主張とは、1990年代前半までの先進国と1990年後半以降の先進国とは根本的な違いがあるというものである。日本も、他の先進国と同様、現在は、古い経済・社会システムから新しいものへと移り変わっていく転換期に位置している。大学生活にも一定慣れた1回生の後期に開講される本講では、改めて大学というところで身につけるべきこととは何かという問題を見つめながら、いくつかの課題を学生の皆さんと一緒に考えていく。		
成績評価法	期末レポート(60%)と授業への参加(40%)		
テキスト	とくに定めない。		
参考書	適宜、紹介する。		
履修に当たっての注意・助言			
講義計画			
<p>上記のように、われわれが生きる2000年代の日本は古いシステムから新しいシステムへと転換する時期にあり、新しい社会の全貌が見えないので、社会には不安感が蔓延している。しかし、嘆く必要はない。かつての古い「マニュアル」社会では知識テストで高い点数を取れる者が重宝されたが、これからの、マニュアルの効かない「不安定化する社会」(ウルリッヒ・ベック)では、問題の諸原因を複数の視点で複眼的に深く探り、その諸原因に対する解決策を提示し、人とつながりながら集団で行動できる能力が重要になってくるということがますます明らかになってきているからである(知識が不要であると言っているわけではない。念のため)。やるべきことの方角性はかならずしも不明ではないのである。</p> <p>以上のような視点から、本講では、日本社会で見られる「現象」を知識として理解しつつ、その現象の「諸原因」を探っていく。簡単に言えば、何気なく新聞記事を読み、テレビを見るのではなく、「何故?」「どうして?」と問う力の開発を目標にして、概ね以下のようなスケジュールで授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション(教員の自己紹介、注意事項、講義のルール等)</li> <li>2. 大学におけるレポート作成の注意点―「自分の言葉で書く」ことの重要性と引用・要約のルール</li> <li>3. 論点1: その時に話題になっている政治問題を取り上げる</li> <li>4. つづき</li> <li>5. つづき</li> <li>6. 論点2: 「HIVを含む性感染症や望まない妊娠の増加という現象とその諸原因とは何か」</li> <li>7. つづき</li> <li>8. つづき</li> <li>9. 論点3: 「いじめの増加という現象とその諸原因とは何か」</li> <li>10. つづき</li> <li>11. つづき</li> <li>12. 論点4: 「不安定就労(フリーターなど)の増加という現象とその諸原因とは何か」</li> <li>13. つづき</li> <li>14. つづき</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>なお、本講では、グループで諸原因について考え、その結果をKJ法を使って整理し、まとめるという訓練もあわせて行う。また、大学生として今後3年間の生活をしていく上で不可欠なレポート・小論文の書き方指導も行う。</p>			